

平成 18・19 年度館山ステーション（坂田）業績報告

1. 利用状況

利用区分		18 年度	19 年度
研究	教員	129	81
	学生	1593	2196
実習		1107	2077
課外活動		971	686
その他		465	472
計		4265	5512

2. 各種実習

生物生産学実習

応用藻類実習

臨海実習

集団生物学実習

動物生態学実習（平成 19 年度は集団生物学実習と合同で実施）

環境テクノロジー実習

漁業科学実習

海洋政策文化学科フレッシュマンセミナー

生物資源学科フレッシュマンセミナー（平成 19 年度のみ）

潜水実習

マリンスポーツ実習

3. 研究活動

(1) 本ステーションを利用する教員とその研究課題

秋山清二： 館山湾の漁業.

塩出大輔： 定置網におけるウミガメ混獲死亡回避装置の開発.

須之部友基： 館山湾における魚類の繁殖生態に関する研究.

カルロス・ストルスマン： 魚類配偶子・受精卵の生物学と凍結保存.

カルロス・ストルスマン： イセエビフィロソーマ幼生の栄養摂取機構の解明.

竹内裕： 海産魚における代理親魚養殖技術の開発.

土屋光太郎： 館山湾周辺海域の貝類相.

藤田大介： 藻場と磯焼けに関する研究.

吉崎悟朗： 精原細胞移植を用いた代理親魚技法の構築：サバにマグロを生ませる.

渡邊精一： 甲殻類の集団生物学.

(2) 卒業論文・修士学位論文・博士学位論文. 括弧内は指導教員名.

平成 18 年度卒業論文

長島一史： 千葉県館山湾の大型定置網における流況と漁況に関する研究. (秋山清二)

長沼美和子： 千葉県館山湾におけるアイゴ *Siganus fuscescens* の資源生態に関する研究.
(秋山清二)

土屋実穂： テングサ海藻礁の開発に関する研究. (荒川久幸)

庵原慎一： ツノヒラムシの摂餌選択性. (瀬川進)

樋口健太郎： 海産魚における代理親魚養殖を目指した精原細胞移植技術の開発 (竹内裕・
吉崎悟朗)

高原 涼： 有節サンゴモ類の光合成特性. (田中次郎)

大副 匠： イシダタミの摂餌選択性. (土屋光太郎)

吉安陽祐： 館山湾坂田周辺海域のナマコ相. (土屋光太郎)

山田蘭： 沖ノ島における岩棚崩壊後の新生面での海藻群落の遷移観察. (藤田大介)

平成 18 年度修士学位論文

大井洋平： 三宅島海域における紅藻マクサ群落への海底堆積粒子の影響. (荒川久幸)

工藤夏樹： 水中デジタル画像を用いた紅藻マクサの定量に関する研究. (荒川久幸)

櫻田智子： 紅藻綱サンゴモ目モクゴロモとソゾゴロモの形態学的研究. (田中次郎)

小川晃弘： 千葉県館山市沖ノ島におけるミリンの季節的消長および培養技術に関する研
究. (藤田大介)

完山暢： 千葉県館山市沖ノ島周辺の磯焼け状パッチ及ぼすガンガゼの影響に関する研究.
(藤田大介)

進士淳平： 塩分変化がタカノケフサイソガニの生理に与える影響. (渡邊精一)

小山敬一郎： フクロムシ類がイワガニに与える形態的变化. (渡邊精一)

平成 18 年度博士学位論文

Mingkid Winda Mercedes: Biology of the penicillate crabs *Hemigrapsus penicillatus*
and *H. takanoi* in Tokyo Bay. (渡邊精一)

Stepanus Alexander Samson: Biology of the grapsoid crab *Plagusia dentipes* de Haan
in Tateyama Bay Japan. (渡邊精一)

Faruq Ahmed: Biology of the Abalones, *Haliotis discus discus*, *H. gigantea*, *H. madaka*
and their Hybrids. (渡邊精一)

平成 19 年度卒業論文

- 大谷健二： 千葉県館山湾におけるアイゴ *Siganus fuscescens* の初期生態に関する研究。
(秋山清二)
- 清水庄太： 館山湾に生息するベラ科オハグロベラ *Pteragogus aurigarius* の繁殖生態。(須之部友基)
- 谷田部誉史： hCG によるニベの人為催熟過程における DHP 追加投与が排卵誘起および卵質改善に及ぼす影響。(竹内裕・吉崎悟朗)
- 内海 聡： 館山湾の褐藻ウミトラノオ付着珪藻相。(田中次郎)
- 後藤 ラムセス： ミル類の付着小型海藻。(田中次郎)
- 野口 裕子： 館山湾の紅藻付着珪藻相。(田中次郎)
- 三石 恭子： 館山湾のアオサ藻付着珪藻相。(田中次郎)
- 飯田美喜子： 海藻着生の小型褐藻の形態。(田中次郎)
- 井上優紀： 歯舌に基づくオリイレヨフバイ科の分類再検討。(土屋光太郎)
- 細矢玲奈： 千葉県沖ノ島沖に設置した人工基質上に着生する海藻の遷移。(藤田大介)
- 杉岡奈々絵： 千葉県沖ノ島地先に設置した人工基質による紅藻ミリン増殖手法の検討。
(藤田大介)
- 福尾幸宏： オキエソの成長と繁殖。(渡邊精一)
- 石川裕希： シロギスにおける釣り鉤の選択性。(渡邊精一)

平成 19 年度修士学位論文

- 小澤一允： 曳縄に対する魚群の行動に関する研究。(秋山清二)
- 有本真依子： 魚類の摂食による磯焼け発生機構に関する研究。(荒川久幸)
- 藤山亜美： 定置網における海亀類の混獲に関する研究。(藤井亜美)
- 村瀬敦宣： Studies on behavioural ecology of two blennioid fish, *Istiblennius enosimae* and *Neocilius bryope*, inhabiting intertidal rocky reef at Tateyama Bay, Chiba, central Japan. (須之部友基)
- 栗山 佳奈： 日本産 *Tabularia* 属の分類学的研究。(田中次郎)
- 近藤 智子： 海草アマモ付着珪藻相の季節変化の研究。(田中次郎)
- 松本 純： 館山湾坂田海域におけるアマオブネの分布生態。(土屋光太郎)
- 福井義治： トラフカラッパの二枚貝に対する摂餌様式に関する研究。(渡邊精一)

平成19年度博士学位論文

- 孫 忠民： Morphological and taxonomical studies on the genera *Padina*, *Dilophus* and *Dictyota* (Dictyotales, Phaeophyceae) [褐藻綱アミジグサ目のウミウチワ属、ニセアミジ属およびアミジグサ属に関する形態分類学的研究] (田中次郎)
- Than Than Lwin: Population biology of the xanthid crab *Leptodius exaratus* (H. Milne Edwards, 1834) in Tateyama Bay. (渡邊精一)

(3) 学術論文

平成 18 年度

Sun Z, Hasegawa K and Tanaka J. (2006) A morphological study of *Dilophus okamurae* (Dictyotales, Phaeophyceae) in Japan. J. Jpn. Bot. 81:235-244.

Yamasaki, I., G. Yoshizaki, M. Yokota, C. A. Strussmann, and S. Watanabe (2006) Mitochondrial DNA variation and population structure of the Japanese mitten crab, *Eriocheir japonica*. Fisheries Science, 72, 298-308.

Mingkid, Winda M., S. Akiwa and S. Watanabe (2006) Morphological characteristics, pigmentation, and distribution of the sibling penicillate crabs, *Hemigrapsus penicillatus* (De Haan, 1835) and *H. takanoi* Asakura & Watanabe, (Decapoda, Brachyura, Grapsidae) in Tokyo Bay. Crustaceana 79, 1107-1121

Mingkid, Winda M., M. Yokota and S. Watanabe (2006) Salinity tolerance of larvae in the penicillate crab *Hemigrapsus takanoi* (Decapoda: Brachyura: Grapsidae). La Mer, 43, 17-21

平成 19 年度

S. Akiyama et al. (2007) Relationship between soak time and number of enmeshed animals in experimentally lost gill nets. Fish. Sci., 73, 881-888

秋山清二 (2007) 館山湾の大型定置網における漁獲物の投棄実態. 日水誌, 73, 1103-1108

秋山清二 (2007) 3G 携帯電話を用いた水中映像遠隔監視システム. 水産海洋エンジニアリング, 72, 12-15

Arakawa, H., T. Watanabe, Y. Morikawa (2007) Visual contrast threshold of striped beak-perch, *Oplegnathus fasciatus*. Fisheries Science, 73, 469-471

H. Manabe, M. Ishimura, A. Shinomiya and T. Sunobe (2007) Field evidence for bi-directional sex change in the polygynous gobiid fish *Trimma okinawae*. J. Fish. Biol., 70, 600-609

高橋香緒里・真鍋尚也・四宮明彦・櫻井真・須之部友基 (2007) 薩摩半島南部沿岸海域で捕獲されたキビナゴの雌雄同体個体. 魚類学雑誌, 54, 246-247.

H. Manabe M. Matsuoka, K. Gotoh, A. Shinomiya and T. Sunobe (2008) Bi-directional sex change in the gobiid fish *Trimma* sp.: does size-advantage exist? Behaviour, 145, 99-113

Shimada S, Tadano T & Tanaka J. (2007) *Codium tenuifolium* (Codiales, Chlorophyta),

a new species from Japan. J. Jpn. Bot. 82:117-125

Samson, S. A., M. Yokota, C. A. Strussmann, and S. Watanabe (2007) Natural Diet of Grapsoid Crab *Plagusia dentipes* de Haan (Decapoda: Brachyura: Plagusiidae) in Tateyama Bay, Japan. Fisheries Science, 73, 171-177

Doi, W., Than Than Lwin, M. Yokota, C. A. Strussmann, and S. Watanabe (2007) Maturity and reproduction of goneplacid crab *Carcinoplax vestita* (Decapoda, Brachyura). Fisheries Science, 73, 331-340

(4) 口頭発表

平成 18 年度

工藤夏樹・滝尾健二・森永勤・荒川久幸：水中写真画像を用いた紅藻マクサの定量に関する研究. 日本水産学会

大井洋平・荒川久幸・森永勤・川辺勝俊：三宅島沿岸域における紅藻マクサ群落への海底堆積粒子の影響. 日本水産学会

有本真依子・荒川久幸・片山知史・柴田玲奈：動物性餌料が植物性餌料の摂餌量の関連. 日本水産学会

荒川久幸・有本真依子・長谷川雅俊・片山知史・柴田玲奈：高水温がヨコエビの生残へ及ぼす影響. 日本水産学会

A. Faruq, C.A. Strüssmann, Y. Koike, S. Watanabe : Improvement of growth performance of hybrids between the abalones *Haliotis discus discus* (Reeve) and *H. madaka* (Habe). Aquaculture 2007 (Sustainable Aquaculture) - The Annual International Meeting of WAS

A. Faruq, Y. Koike, C.A. Strüssmann, I. Yamasaki, M. Yokota, S. Watanabe : Genetic characterization and gonad development of artificially produced interspecific hybrids of the abalones, *H. discus discus*, *H. gigantea* and *H. madaka*. Molluscs 2006 (Molluscs in Research, Conservation and the Economy) - Triennial Meeting of the Malacological Society of Australasia

竹内裕：代理親魚養殖～アジにマグロを産ませる技術の開発. 日伊市民フォーラム「誰が日本を養うか」

近藤智子・栗山佳奈・南雲保・鈴木秀和・田中次郎：海草アマモの付着珪藻相 1. 日本珪藻学会 27 回大会(新潟市)

栗山佳奈・近藤智子・南雲保・鈴木秀和・田中次郎： 海草アマモの付着珪藻相 2. 日本珪藻学会 27 回大会(新潟市)

Kuriyama K, Kondo T, Watanabe T, Suzuki H, Tanaka J & Nagumo T. : Attached diatom flora on *Zostera marina* from Chiba and Kanagawa. Prefecture, Japan. 19th Int. Diatom Symp. (Listvyanka, Russia)

近藤智子・鈴木秀和・南雲保・田中次郎： 千葉県館山産の海産アマモ (*Zostera marina*) に着生する珪藻類. 日本珪藻学会 26 回研究集会(上田市)

栗山佳奈・南雲保・鈴木秀和・田中次郎： 日本産 *Tabularia* 属珪藻の殻微細構造の観察 日本珪藻学会 26 回研究集会(上田市)

完山暢・藤田大介： 千葉県館山湾沖ノ島周辺の磯焼け状パッチに及ぼすガンガゼの影響. 日本藻類学会

井上大輔・藤田大介： 千葉県沖ノ島におけるミリン浮遊藻体の生長. 日本藻類学会

Than Than Lwin ・横田賢史・Carlos A. Strussmann ・渡邊精一： Molting and female reproduction of the xanthid crab, *Leptodius exaratus* (H. Milne Edwards, 1834) in Tateyama Bay. 日本甲殻類学会

宇佐美葉・横田賢史・Carlos A. Strussmann ・渡邊精一： 関東における淡水性十脚目甲殻類の分布. 日本甲殻類学会

藤木宣成・渡邊精一・岡本研： 東京湾潮間帯部におけるフジツボ類の分布. 日本付着生物学会

Faruq Ahmed, Yasuyuki Koike, Carlos Augusto Strussmann, Izumi Yamasaki, Masashi Yokota and Seiichi Watanabe : Genetic characterization and gonad development of artificially produced interspecific hybrids of the abalones, *H. discus discus*, *H. gigantea* and *H. madaka*. Malacological Society of Australasia.

平成 19 年度

村瀬敦宣・須之部友基： 千葉県館山市坂田の潮間帯に生息するコケギンポの繁殖生態. 日本魚類学会

村瀬敦宣・須之部友基： 房総半島南岸より得られたコケギンポ科コケギンポ属の 1 未記載種. 日本魚類学会

S.C. Söylemez, K. Murakami, C.A. Strüssmann, M. Yokota, S. Watanabe : Net uptake of dissolved free amino acids by the Japanese spiny lobster (*Panulirus japonicus*) phyllosoma larvae. 8th International Conference & Workshop on Lobster Biology &

Management

Sk. M. Rahman, S. K. Majhi, T. Suzuki, C. A. Strüssmann, R. Takai : Basic studies on the cryopreservation of Japanese whiting (*Sillago japonica*) embryos. Cryo2007 - 44th Annual Meeting of the Society for Cryobiology

竹内裕 : 海産魚における代理親魚養殖を目指した精原細胞移植技術の開発. 日本水産学会春季大会

Y. Takeuchi : Interspecies transplantation of spermatogonia in marine teleosts. 8th international symposium on reproductive physiology of fish

樋口健太郎 : 海産魚における代理親魚養殖を目指した精原細胞移植技術の開発. 日本水産増殖学会第6回大会

貞松大樹・細矢麗奈・山田蘭・能登谷正浩・藤田大介 : 千葉県館山市坂田地先沿岸における藻場の衰退について. 日本藻類学会

山田蘭・完山暢・能登谷正浩・藤田大介 : 千葉県館山市沖ノ島における岩棚崩壊後の新生面における海藻群落の遷移. 日本藻類学会

細矢玲奈・杉岡奈々絵・井上大輔・能登谷正浩・藤田大介 : 千葉県沖ノ島沖に設置した人工基質による紅藻ミリンの生長. 日本藻類学会

進士淳平・渡邊精一 : 東京湾湾口で漁獲される十脚甲殻類. 日本甲殻類学会,

宇佐美葉・横田賢史・渡邊精一 : スジエビ *Palaemon paucidens* の地理的変異性. 日本甲殻類学会

宇佐美葉・横田賢史・渡邊精一 : 関東を中心とした淡水性十脚目甲殻類の生息状況. 日本甲殻類学会

山崎いづみ・渡邊精一 : モクズガニ異所的集団の種内分化. 日本甲殻類学会

福井義治・横田賢史・渡邊精一 : ラフカラッパにおけるチョウセンハマグリの摂餌について. 日本甲殻類学会

山崎いづみ・渡邊精一 : ケフサイソガニ地方集団間の遺伝的変異性. 日本甲殻類学会

土井航・横田賢史・渡邊精一 : 東京湾内湾主要カニ類の繁殖形質の分類. 日本甲殻類学会

(5) 報告書

平成 18 年度

塩出大輔 : ウミガメ類の定置網への入網と沿岸への来遊機構に関する研究. 公益信託 エスペック地球環境研究・技術基金, 平成 18 年度 助成金研究報告書.

藤田大介 : スラグ炭酸固化体による生物付着能力の高度利用 平成 18 年度報告書

平成 19 年度

吉崎悟朗： サバにマグロを生ませる. 農林水産技術研究ジャーナル, 31, 31-33

藤田大介： スラグ炭酸固化体による生物付着能力の高度利用 平成 19 年度報告書

完山暢・藤田大介： 3.5 館山湾沖ノ島/千葉県. 磯焼けを起こすウニ 44-50 成山堂書店

4. 社会への貢献

(1) 小・中・高等学校への学習指導

西岬小学校 (館山市), 品川女子学院中学校(品川区), 富岡高校(群馬県)SPP

(2) アワビ放流事業

		18 年度	19 年度
クロアワビ	個数	800	1000
	重量(Kg)	15	15
メガイアワビ	個数	2000	4000
	重量(Kg)	25	34
マダカアワビ	個数	800	500
	重量(Kg)	19	13
トコブシ	個数	3600	500
	重量(Kg)	59	—

放流場所： 西岬漁協管内, 館山船形漁協管内